

# 大友時代を 生きた人々

鹿毛 敏夫



コスメ・デ・トルレスは、スペイン・バレンシア出身のカトリック司祭で、1510年に生まれ、70年に没します。若くしてメキシコ、そして東南アジアのモルッカ諸島に渡り、そこでフランス・コス・ザビエルの影響を受けてイエズス会に入会したとされます。

ザビエルと共に日本への宣教を志して、天文18(1549)年に鹿児島に上陸。ザビエルは2年3カ月で離日しますが、トルレスはその後の日本布教を託され、平戸、山口、府内(大分市)などで地道な活動を展開しました。

大友義鎮(宗麟)の弟で山口の大内家を継いだ大内義長が、同21(52)年に発給した裁許状が残されています(一五五二年九月一日付、山口発、大内義長のコスメ・デ・トルレス宛判物)『日本関係海外史料 イエズス会日本書翰集』より。

『周防国吉敷郡山口県大道寺の事、西域より来朝の僧、仏法紹隆のため彼の寺家を創建すべく由、請望の旨に任せ裁許せしむる所の状、件の如し』

## コスメ・デ・トルレス



聖ザビエル記念公園 (山口市)

## 日本布教を託された司祭

大内義長は、「西域より来朝の僧」(イエズス会司祭のトルレス)が「仏法」(キリスト教)を紹隆するための「寺家」(教会)を建立することを許可したことが分かります。義長が建設許可した「大道寺」という名の教会は、大内氏館東方の山口市金古曾町の聖ザビエル記念公園付近とする説と、同市道場門前1丁目の本園寺向かいとする説があります。

そして、弘治2(56)年には、兄の大友義鎮が、トルレスに対して、府内での布教拠点の拡充を支援しています(フロイス「日本史」)。

「一行は国主から、一軒の家屋を贈物として受け取ったが、それは国主の持家であり、また同国で最良の(家屋の)一つであった。そのうえ司祭たちは国主の同意を得た上で、初めに贈られた地所に接した非常に良い地所を購入した。さらに国主は、彼らに(新たに与えた)家屋に対して毎年一定の扶持を与えるように命令した」

「司祭たち」(トルレスら)に対して「国主」(大友義鎮)は、屋敷と「扶持」(年貢)を寄進し、また、イエズス会自身も3年前に寄進を受けた土地に隣接する新たな土地を獲得したのです。

こうして拡張された府内キリスト教界の新旧二つの敷地は、その後それぞれ「上の地所」「下の地所」と呼称されるようになります。

「上の地所」には、新しい教会が建設され、一方「下の地所」は、その後、ハンセン病の患者を受け入れる病院として改装されました。

(名古屋学院大学国際文化学部教授)

11月1回掲載